

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

都道府県の情報

都道府県内の総人口	1,364,316	人(※1)
がん死亡者数 (%)	4,049	人(約0.29%)(※2)
高齢化率	28.7	%(※3)

※1・※3 平成27年国勢調査より

※2 平成30年発行「第3期奈良県がん対策推進計画」より

都道府県内のがん患者の状況

※1

※2

がん種	罹患者数	年齢調整 罹患率	死亡者数	年齢調整 死亡率
肺がん	1,372人	43.3	863人	24.7
大腸がん	1,525人	69.5	495人	13.4
胃がん	1,724人	55.2	547人	14.8
乳がん	894人	49.4	137人	6.2
肝臓がん	505人	14.9	337人	9.0

※1 ※2 人口10万対

出典：奈良県のがん登録(平成27年)

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

がん診療連携拠点病院の情報

近畿大学奈良病院：518床

奈良県総合医療センター：460床

国保中央病院：220床

市立奈良病院：350床

大和高田市立病院：320床

天理よろづ相談所病院：715床

済生会中和病院：324床

南奈良総合医療センター：232床

奈良県立医科大学
附属病院：992床

人口、医療機関
が北部・中部に
集中しているよ



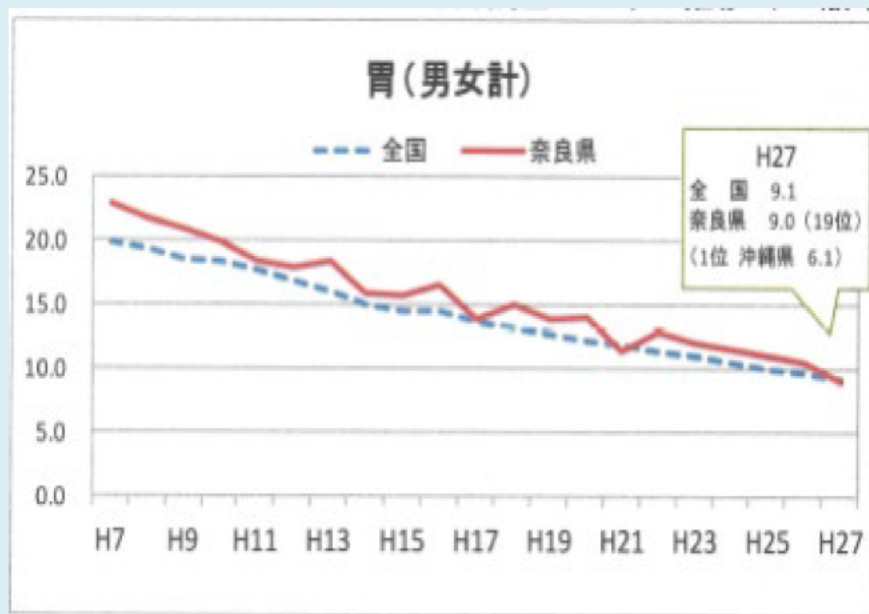
都道府県がん診療連携拠点病院
1施設

地域がん診療病院
1施設

地域がん診療連携拠点病院
4施設

奈良県がん診療連携支援病院
3施設

都道府県におけるがん医療の特性①

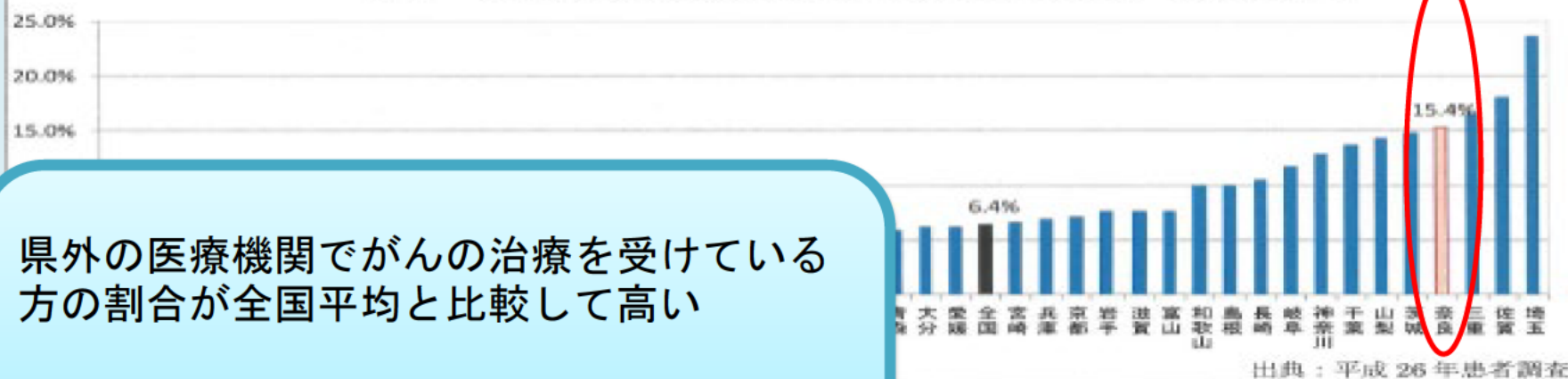


出典：国立がん研究センターがん対策情報センター・がん情報サービスより奈良県作成

がんの年齢調整死亡率(75歳未満・人口10万対)では、胃がんが全国値を上回る状況で推移。大腸がんは全国値を下回る状況で推移している。

都道府県におけるがん医療の特性②

図15 がん患者の県外医療機関の利用状況(入院) (平成26年)



県外の医療機関でがんの治療を受けている方の割合が全国平均と比較して高い

- 京阪神地区への交通の便が良い
- 県南部は和歌山県の医療機関の方が近い

図16 がん患者の県外医療機関の利用状況(外来) (平成26年)



都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

【現状】

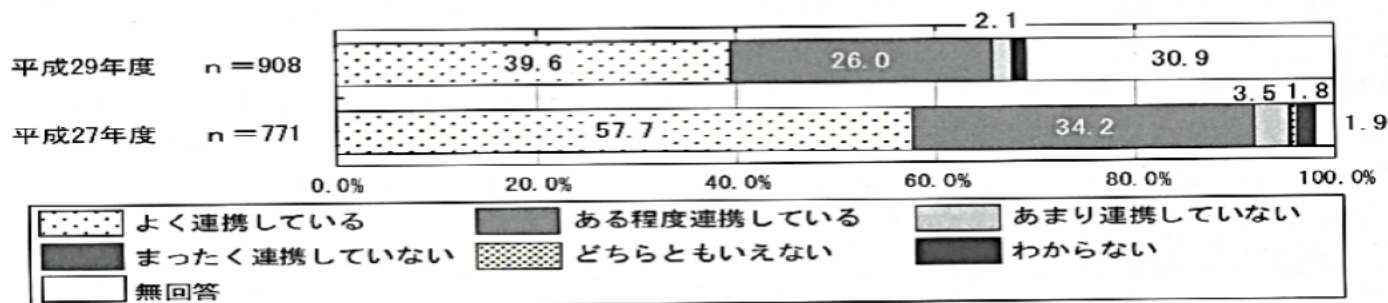
拠点病院において薬物療法部門や外来化学療法室の整備を促進し、専門的知識を有する医師・看護師・薬剤師を配置。手術療法・放射線療法・薬物療法に関わる医療従事者によるカンサーボードの実施。

化学療法医療チーム指導者養成研修を受講した指導者が中心となり、拠点病院のチーム医療研修を実施。

平成30年発行「第3期奈良県がん対策推進計画」より

【課題】

(図 2-4) 院内スタッフの連携について



(出典：ならのがんに関する患者意識調査)

患者意識調査では診断・治療に関わる医療従事者が「連携している」と思っている割合は平成29年度の調査で65.6%、平成27年度の調査と比較して26.3ポイント下回っており、より一層チーム医療体制の強化が望まれる。

平成30年発行「第3期奈良県がん対策推進計画」より

都道府県単位でがん医療の質向上に資する活動

- ❖ まほろば塾(年2回)
レジメン管理→本になった
- ❖ がん化学療法チーム研修(年1回)
チームを作ろう、副作用対策、症例検討など
- ❖ 化学療法Webカンファレンス(年6回)
・ 症例検討、ゲノム医療、化学療法室での困りごとなど
- ❖ 薬物療法セミナー開催(年4回)
奈良医大主催。県内の医療機関に周知
- ❖ まほろばPEACE緩和ケア研修会(年4回)
- ❖ 奈良県がん化学療法看護認定看護師会主催研修会(年1回)
曝露対策、過敏症について
- ❖ 奈良県がん化学療法薬剤師研修会(年1回)
レジメンマネジメントについて学ぼう
- ❖ 奈良県がん相談従事者研修会
相談対応の質保証など

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

研修でうまく行えている点をあげてください

- ◇コンスタントに応募があり、毎年継続して実施できた。
(最大8施設、平均4~6施設)
- ◇ファシリテートの経験が少なくても、サポートし合えるようにしている。
- ◇モチベーションの高い参加者が多い
- ◇研修スタートの時点でチーム内の関係性ができている

上記が上手く行えるように工夫している点は何ですか

- ◇研修中、ファシリテーターミーティングをこまめに行っている
- ◇ファシリテーターに外部の方を招き、多様な視点からのファシリテートを心掛けている
- ◇事前課題提出を求め、研修前に顔合わせ、チームワークが機能するようにしている。
- ◇ユニークなチーム名を考えてきてもらい、発表してもらうなど、アイスブレイキングに繋げている
- ◇チームの成果物完成度を考慮して発表の順番を決めている
- ◇多職種チームとして参加しやすい時期、曜日を考慮して開催している
- ◇修了証を発行し、参加者を労うとともに、代休が取得しやすいように配慮している

研修で困っている事をあげてください

- ◇化学療法に関連して院内でのチーム活動を担う医師が確保しにくい
→経験年数の少ない医師が参加することもあった
→参加する医師が毎年変更になる医療機関が多い
- ◇アンケートの評価は高いが、実際のチーム活動に繋がっているかどうか把握しにくい。
- ◇施設により規模、症例数、医師の専門性などに差があり、全ての施設のニーズを満たすテーマを設定するのが難しい(症例検討をテーマにするのが難しい)
- ◇参加チーム数が多いと、発表時間が長くなるなど参加者のモチベーション維持が難しい
- ◇化学療法室のある医療機関すべてに募集をかけているが、一度も応募してもらえていない施設がある。
- ◇施設によって、4職種でのチーム編成が困難なことがある。

研修計画の評価

【研修デザインに関する評価】

- 研修時間・曜日は適切であった。
- 4職種以外の職種(PT・OT・栄養士など)の参加も必要との意見があった
- 研修から役立つ情報を得られたとの回答が多かったことから、ニーズに合っていたと考えられる

【研修結果に関する評価】

- 事前・事後アンケートから、各職種との連携の必要性や役割についての理解が深まったとの回答が多かった。
- 副作用対策について「実行に移そうと思う」との回答が多く、参加者の意識変化、行動変容に繋がったと思われる。
- チームでの取り組みに対する意識づけができた
- MSWとの連携を取っていく必要性を感じる事ができた。

次回に向けた課題と方向性

【課題】

- ・ 異動、退職などで研修実施毎にチーム構成メンバーが変更になり、毎回チーム作りからのスタートとなっているのが実情
- ・ Web研修になることで時間が限られるため、開催方法・ファシリテーションの方法を変える必要があり、これまでのノウハウが活かしにくい面がある。

【方向性】

- ・ オンライン開催。
- ・ 治療選択だけではなく、社会背景にも踏み込んだ症例検討を行い、多職種で連携して患者支援を行うことを目指す。
- ・ Googleスライド使用。

研修の概要

【タイトル】 多職種チームで支えよう！
化学療法中の患者さんの からだ・こころ・くらし

【目的】
がん化学療法医療チーム(医師・薬剤師・看護師・MSW)が、患者の背景を踏まえてチーム医療を円滑に行うことができることを目的とする。

【対象者・人数】
奈良県内でがん診療を行っている医療機関に所属する医師・薬剤師・看護師・MSWで構成された医療チーム 最大4チーム

【目標】
一般目標 (GIO)
がん化学療法医療チームメンバーが各職種の役割を理解することができる。
がん化学療法医療チームとして、今後活動を継続することができる。

到達目標 (SBO)
がん化学療法医療チーム内で患者支援に必要な情報共有が円滑に実施できる。
患者に生じている課題・困りごとに対して、各職種の強みを活かし多面的な支援を実施できる。

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

プログラム

令和4年3月5日(土)開催

開始	終了	時間	研修方法	内容
13 : 00	13 : 15	15	講義	開会挨拶・オリエンテーション
13 : 15	13 : 45	30	発表	チーム紹介(施設紹介・アイスブレイキング)
13 : 45	14 : 05	20	講義	Key Note Lecture(課題の説明)
14 : 05	14 : 25	20	GW	チーム別グループワーク
14 : 25	14 : 30	5	—	休憩
14 : 30	15 : 20	50	GW	職種別グループワーク
15 : 20	16 : 20	60	GW	チーム別グループワーク
16 : 20	16 : 30	10	—	休憩
16 : 30	17 : 10	40	発表	発表
17 : 10	17 : 30	20	まとめ	全体共有・まとめ

研修の評価

【実施評価】

オンライン開催にしたことへの評価(初めての形式)
参加しやすさ(開催曜日、時間帯)
研修時間(短い、長い、ちょうどいい)

【結果評価】

研修前と研修後でアンケートを実施。他職種への理解や連携の必要性について意識がどのように変化したかを分析。

【企画評価】

受講者：次回も参加したいかどうか、人に薦めたいか
ファシリテーター：研修終了後の振り返りと次年度目標、改善点の抽出

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

セッション1 施設紹介

日時 3月 5日（土） 13：15～13：45
場所
セッティング
担当
用意するもの

【学習目標】

事前にスライド作成などを行うことで、事前にチームワークを高め、アイスブレイキングにも繋げることを目指す

【事前準備】

ユニークなチーム名を考えて、施設紹介用のスライドを作成してもらう。

【会場準備】

【すすめ方】

発表の順番と、質問者を事前に決めておくことで、意見や質問・感想が出やすいようにしておく。

【セッションでの留意点】

最初のセッションなので、質問等が少なければファシリテーターが積極的に質問をして会場を温める

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

セッション2 Key Note Lecture

日時 3月 5日 (土) 13:45~14:05
場所
セッティング
担当
用意するもの

【学習目標】

今回の研修会での到達目標などを明示することで、受講生の学びの方向性を共有する。

【事前準備】

特になし

【会場準備】

【すすめ方】

チーム医療の概念を示し、後の症例検討での実践に繋げる。(講義)

【セッションでの留意点】

受講生がグループワークでどのようなことを検討するのかを具体的に提示する。

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

セッション3 チーム別グループワーク1

日時 3月 5日（土） 14：05～14：25
場所
セッティング
担当
用意するもの

【学習目標】

Key Note Lecture を踏まえて事前課題を再度振り返り、各職種の視点を共有する。

【事前準備】

チーム内で事前課題を共有しておいてもらう。

【会場準備】

【すすめ方】

ファシリテーターが各チームの状況を見極めて研修課題が達成できるように方向付けをする。

【セッションでの留意点】

チームメンバーが満遍なく発言できるように配慮する。

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

セッション4 職種別グループワーク

日時 3月 5日（土） 14：30～15：20
場所
セッティング
担当
用意するもの

【学習目標】

他施設の同職種の視点を共有し、自施設での課題解決につなげる。

【事前準備】

特になし

【会場準備】

【すすめ方】

仮想症例の検討時に感じた課題の共有や、他職種との連携・共同で困っていること、困難と感ずること、その解決策についてファシリテーターから質問する形で進めていく。

【セッションでの留意点】

チームメンバーが満遍なく発言できるように配慮する。同職種間だからこそ共有できる話題を話せるようにするなど、リラックスした雰囲気話せるように配慮する。

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

セッション5 チーム別グループワーク2

日時 3月 5日（土） 15：20～16：20
場所
セッティング
担当
用意するもの

【学習目標】

職種別グループワークの内容を踏まえ、成果物を完成させ、発表に向けての準備を行う。

【事前準備】

特になし

【会場準備】

【すすめ方】

各職種が他施設から得た情報、課題解決方法をチーム内で共有しながら成果物の完成を目指し、検討症例への対応方法、役割分担などより深くディスカッションする。

【セッションでの留意点】

正解を求めるだけでなく、チーム内での情報共有や課題の共有、他職種への理解を深めることを目的とできるようにファシリテートする。研修終了後もチームで活動できるような方法も検討できるよう促す。

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

セッション6 発表

日時 3月 5日（土） 16：30～17：10
場所
セッティング
担当
用意するもの

【学習目標】

自施設で検討した内容を発表するとともに、他施設の状況も把握して自施設での活動に活かす。

【事前準備】

2症例の要点をファシリテーターから受講生に共有することで、発表が効率的に行えるようにする。

【会場準備】

【すすめ方】

発表5分、質問5分の時間配分で進める。事前に質問するチームを決めておき、より他施設の発表に関心を持って聞けるようにする。

【セッションでの留意点】

5分経過時点で合図する(厳密な時間管理は不要)症例の要点はファシリテーターから紹介するので、詳細な症例紹介は発表時には不要であることを伝えておく。

病院名 奈良県立医科大学附属病院
都道府県名 奈良県

セッション7 全体共有・まとめ

日時 3月 5日（土） 17：10～17：30
場所
セッティング
担当
用意するもの

【学習目標】

受講者を労い、研修の内容・成果を翌日以降のチーム活動で活かせるようエンパワーする。

【事前準備】

アンケートのURLをチャットで送信する。

【会場準備】

【すすめ方】

各チームの担当ファシリテーターからチームの良かった点を伝え、モチベーションアップを図る。

【セッションでの留意点】

発表時間が長引く可能性があるため、残り時間に配慮して湖面とするファシリテーターの人数などを適宜調整する。